

平成21年度沖縄群島病害虫発生予報第10号(1月予報)

1月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	30	30	30
平 年 並	40	40	40
低い(少ない)	30	30	30

(平成21年12月25日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
沖縄群島(那覇)	16.6	19.1	14.3	114.5	95.3

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

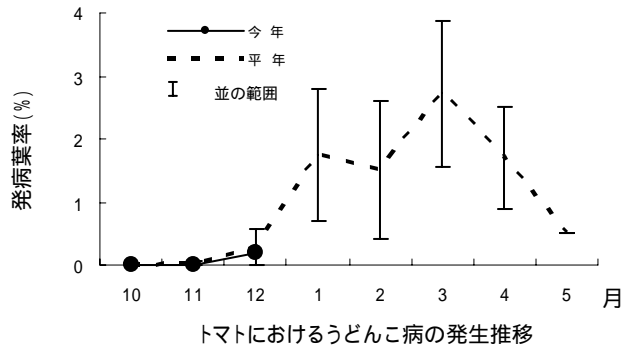
1月の発生予報および防除上の注意事項

1 トマト

(1) うどんこ病

発生程度 : 並
予報の根拠

- a 12月下旬の調査の結果、発病葉率は0.2%(前年0.2%、平年0.3%)と平年並であった。
- b 気象予報によると、向こう1か月の平均気温は平年並の確率が40%の見込みで、本病の発生は平年並で推移すると考えられる。



< 防除上注意すべき事項 >

- a 通風が悪いときに多発生しやすいので、老葉や病葉を除去し、透光通風を良くする。
- b 今後発生が増加すると考えられるので初期防除を徹底する。
- c 多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・早期防除に努める。
- d 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

トマト黄化葉巻病の防除対策

- a 12月下旬の調査の結果、本島南部および北部の一部施設で本病の発生が確認された。また、本病の媒介虫であるタバココナジラミの葉当たり成虫数は0.02頭(前年0.03頭、平年0.14頭)と平年よりやや少なかった。
- b 発病株は感染源となるため、早急に抜き取る。抜き取った株は必ずビニール袋に入れるなどして密封処分する。
- c 施設開口部には目合いの細かい防虫ネットを展張し、タバココナジラミの侵入を防止する。
- d 黄色粘着テープ等により、タバココナジラミの早期発見・早期防除に努める。
- e タバココナジラミの薬剤防除を行う場合は、マルハナバチに影響の少ない薬剤を選定する。

2 ピーマン

うどんこ病の防除対策

- a 12月下旬の調査の結果、発病葉率は0.3% (前年0.6%、平年1.9%)と平年よりやや少なかった。
- b 通風が悪いときに多発生しやすいので、老葉や病葉を除去し、透光通風を良くする。
- c 今後発生が増加すると考えられるので初期防除を徹底する。
- d 多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・早期防除に努める。
- e 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

タバココナジラミの防除対策

- a 12月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.1頭未満 (前年0頭、平年0.1頭未満)と平年並であった。
- b 本島南部地域では、薬剤感受性の低いバイオタイプQが確認されている。
- c 施設の開口部には防虫ネット等を張り飛来侵入を防ぐ。
- d 本種は、多発すると果実の着色異常やすす病を引き起こすため、早期発見・早期防除に努める。
- e 発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- f 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤を利用する。

チャノホコリダニの防除対策

- a 12月下旬の調査の結果、一部施設で本種の多発生が見られた。
- b 摘葉等の残渣は、ビニール袋に入れるなどして圃場外へ持ち出し処分する。
- c 増殖が速く、多発すると防除が困難になるので早期発見・早期防除に努める。
- d 生長点付近の葉の隙間や果実のへたなど薬剤がかかりにくい場所に寄生するので、散布むらのないよう丁寧に散布し、同系統薬剤の連用は避ける。

3 さやいんげん(平張り)

菌核病の防除対策

- a 12月下旬は曇天の日が多く、気象予報によると向こう1か月は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されており、本病の発生を助長すると考えられる。
- b 発病部位は、菌核が形成される前に早めに除去し、ビニール袋に入れるなどして圃場外へ持ち出し処分する。
- c 多湿時に発生しやすいので、老葉病葉は取り除き透光通風を良くする。
- d 例年発生時期に当たるので、予防防除に努める。

4 小ぎく(彼岸出荷用)

アザミウマ類の防除対策

- a 12月の調査の結果、アザミウマ類による葉の被害がみられ、被害圃場率は82.4%(前年62.5%)、被害莖率は24.7%(前年10.7%)で前年より発生が多かった。
- b 発生源となる圃場内外の雑草を除去する。
- c 虫見板等により早期発見し、早期防除に努める。
- d 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

ハダニ類の防除対策

- a 12月の調査の結果、ハダニ類の葉への寄生がみられ、発生圃場率は47.1%(前年4.2%)、寄生莖率は20.3%(前年0.5%)で前年より発生が多かった。
- b 発生源となる圃場内外の雑草を除去する。
- c 多発すると防除が困難になるので早期発見・早期防除に努める。
- d 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

